

本学の教育理念と活動方針

岐阜薬科大学は、学科教育研究上の目的ならびに学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の実現のために教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいた教育を実践している。さらに、本学独自の活動方針に基づき、グリーンファーマシー教育を実施している。

岐阜薬科大学の理念

薬と健康についての高度な研究に支えられた教育により、有為な薬学専門職業人を育成し、それらを通じて社会に貢献する。

大学の目的

学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く薬学に関する学理と技術を教授研究し、知的・道徳的に優れ、また応用能力のある人材を育成し、もって社会の発展に寄与することを目的とする。（学則 第1条）

学部の理念

「ヒトと環境にやさしい薬学（グリーンファーマシー）」の実践を基本方針とし、次の理念をもとに教育、研究、地域貢献を行う。

教育理念：グリーンファーマシーに基づく薬学専門職業人の育成

研究理念：薬と健康についての教官個々の自由闊達な研究と大学プロジェクト研究の推進

地域貢献理念：『健康科学』を中心とした地域の知的クラスターとしての活動による貢献

学科の目的

薬学分野における最新の学理と技術を教授研究し、高度な知識・技能並びに豊かな人間性と高い倫理観を身に付けた優れた薬剤師及び臨床薬学研究者を育成することを目的とする。（学則 第4条第1項）

薬学科は、薬学分野における最新の学理と技術を教授研究し、臨床に係る高度な知識・技能、実践的能力及び研究能力並びに豊かな人間性と高い倫理観を身に付けた優れた薬剤師として求められる資質を有する医療従事者、研究者及び技術者を育成することを目的とする。（学則 第4条第1項）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

薬学科に所定の期間在籍し、本学の基本理念と教育目標に基づいた教育課程を履修して、所定の単位を修得し、かつ下記の能力を身につけたと認められる者に学士（薬学）の学位を授与する。

■本学の基本理念である「ヒトと環境にやさしい薬学（グリーンファーマシー）」を理解し、実践できる。

■薬剤師としての心構え、広い教養と豊かな人間性、コミュニケーション能力、グローバル化と情報化社会に対応できる英語力並びに基礎的な科学力を身につけている。

- 薬物療法における知識・技能と実践的能力を修得し、薬剤師として患者・生活者本位の視点に立ち、チーム医療や地域の保健・医療に貢献する能力を身につけている。
- 医療薬学コース 問題解決能力をもって、主に医療現場で必要とされる実践力や臨床研究を展開する能力を身につけている。
- 創薬育薬コース 問題解決能力をもって、主に創薬科学および生命科学の研究を展開する能力を身につけている。
- 生涯にわたり自己研鑽を継続し、医療や創薬を担う次世代の人材を育成する意欲と態度を身につけている。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

薬学部の理念と教育目標に基づいた薬学専門職業人を育成するために、基礎教育科目と専門教育科目を有機的に関連付け、1年次から卒業年次まで効率的で一貫した教育課程を編成し、人と環境にやさしい薬学教育を実施する。

(1) 教育課程

- 薬剤師として必要な人と環境に配慮できる豊かな人間性と確固たる倫理観・使命感を培う「ヒューマニズム教育」と「エコロジー教育」を意識した基礎および専門教育課程を編成する。
- 基礎教育 薬学の基礎となる自然科学系科目、幅広い教養と豊かな人間性を涵養する多様な人文社会科学系科目、国際グローバル化社会と情報化社会に対応できる英語力を重視した外国語科目、健全な身体を育む保健体育科目からなる基礎教育課程を編成する。
- 専門教育 薬学教育モデル・コア・カリキュラムを基本とし、薬学一般、有機化学系、物理化学系、生物化学系、衛生薬学系、情報系、医療基礎薬学系、医療専門薬学系、医療薬学コース・創薬学系育薬コースに区分した薬学専門科目を低学年から高学年にかけて系統的に配し、継続性のある専門教育課程を編成する。
- 実習 科学的根拠に基づいて問題を発見し解決する能力、医療現場での実務および薬学研究に必要な技能を体得するための実習科目と研究力を身につける特別実習を重視した教育課程を編成する。さらに、その実施過程において、自己研鑽に努め、人材育成能力、薬剤師・薬学研究者として必要なコミュニケーション能力が身につくような教育課程を編成する。
- 医療薬学コース 薬剤師として医療現場に必要な基礎知識・技能はもとより、実践力と研究力が身につくような教育課程を編成する。
- 創薬育薬コース 研究者・技術者・教育者として必要な基礎知識・技能はもとより、医療に関する教養、研究現場に必要な実践力と研究力が身につくような教育課程を編成する。

(2) 教育・学修方法

教育目標への到達に適した教育・学修方法として、少人数授業、アクティブラーニング、問題解決型学習等を取り入れた講義、演習、実習を行う。

(3) 学修成果の評価

すべての授業科目について、それぞれの教育目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知し、学修成果を厳格かつ公正に評価する。評価方法には、筆記試験、レポート、プレゼンテーション、実技等が含まれ、教育目標に即して多元的、包括的な方法で到達度を判定する。

ディプロマ・ポリシーと授業科目の対応表

- 【DP1】 薬学部理念である「ヒトと環境にやさしい薬学（グリーンファーマシー）」を理解し、実践できる。
- 【DP2】 薬剤師としての心構え、広い教養と豊かな人間性、コミュニケーション能力、国際化と情報化社会に対応できる英語力並びに基礎的な科学力を身につけている。
- 【DP3】 薬物療法における知識・技能と実践的能力を修得し、薬剤師として患者・生活者本位の視点に立ち、チーム医療や地域の保健・医療に貢献する能力を身につけている。
- 【DP4】 医療薬学コース 問題解決能力をもって、主に医療現場で必要とされる実践力や臨床研究を展開する能力を身につけている。
- 【DP5】 創薬育薬コース 問題解決能力をもって、主に創薬科学および生命科学の研究を展開する能力を身につけている。
- 【DP6】 生涯にわたり自己研鑽を継続し、医療を担う次世代の人材を育成する意欲と態度を身につけている。

◎最も関連するDP ○2番目以降に関連するDP

区分	授業科目		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
基礎教育科目	自然科学系	一般化学	必修	◎				
		数学	必修	◎				
		物理学	選A	◎				
		無機化学	必修	◎				
		生物学	選A	◎				
		統計学	必修	◎				
		コンソーシアム科目Ⅰ	選C	◎				
	人文・社会科学系	コミュニケーション論	必修	◎				
		生命倫理学	必修	◎				
		法学	選B	◎				
		経済学	選B	◎				
		文学	選B	◎				
		心理学	選B	◎				
		哲学	選C	◎				
		社会学	選C	◎				
		コンソーシアム科目Ⅱ	選C	◎				
	外国語	実用英語Ⅰ	必修	◎				
		実用英語Ⅱ	必修	◎				
		実用英語Ⅲ	必修	◎				
		英語会話Ⅰ	必修	◎				
		英語会話Ⅱ	必修	◎				
		英語会話Ⅲ	必修	◎				
	第二外国語	ドイツ語Ⅰ	選D	◎				
		ドイツ語Ⅱ	選D	◎				
		スペイン語Ⅰ	選D	◎				
		スペイン語Ⅱ	選D	◎				
		中国語Ⅰ	選D	◎				
		中国語Ⅱ	選D	◎				
	体育・保健	健康・スポーツ実習Ⅰ	必修	◎				
		健康・スポーツ科学	選B	◎				
		健康・スポーツ実習Ⅱ	選C	◎				

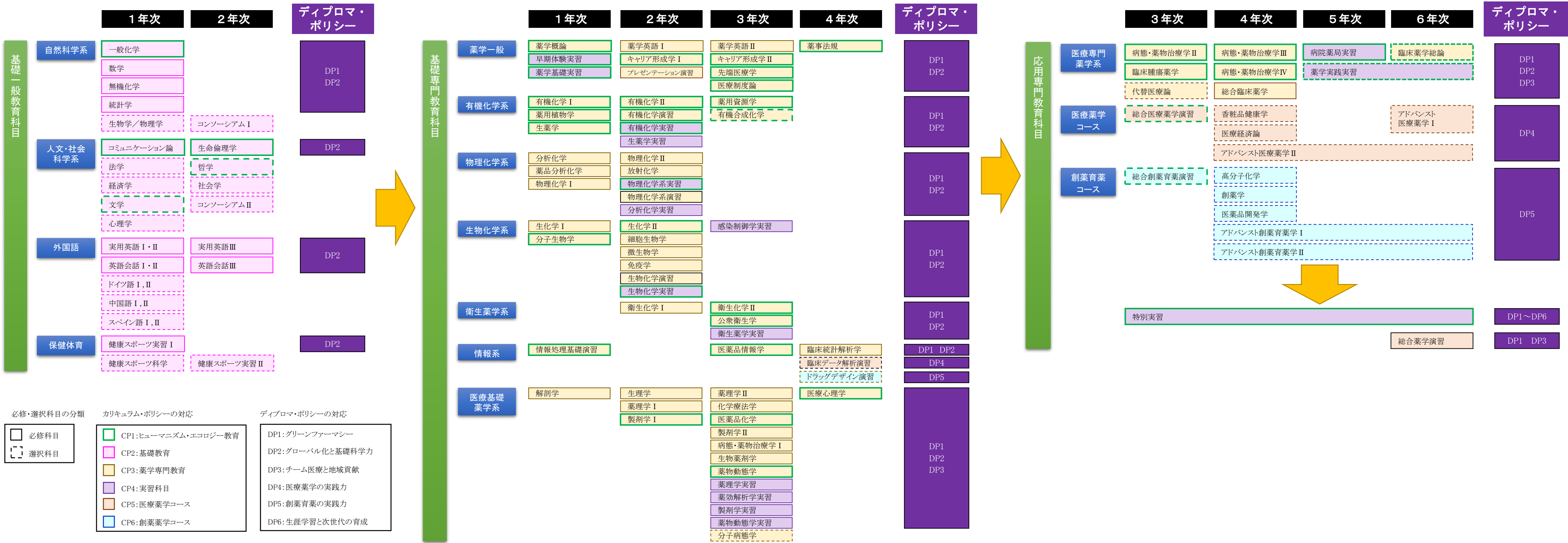
◎最も関連するDP ○2番目以降に関連するDP

区分	授業科目	必修	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
基礎専門教育科目	薬学一般	薬学概論	必修	◎				○
		早期体験実習	必修	◎				○
		薬学基礎実習	必修	◎	○			
		薬学英語Ⅰ	必修	○	◎			
		薬学英語Ⅱ	必修	○	◎			
		キャリア形成学Ⅰ	必修	○	◎			
		キャリア形成学Ⅱ	必修	○	◎			
		プレゼンテーション演習	必修	○	◎			
		先端医療学	必修			◎		
		医療制度論	必修	○	◎			
		薬事法規	必修		◎			
	有機化学系	有機化学Ⅰ	必修		◎			
		有機化学Ⅱ	必修	◎			○	
		有機化学演習	必修	◎	○			
		有機化学実習	必修	○	◎			
		有機合成化学	選E	○			◎	
		薬用植物学	必修	◎				
		生薬学	必修	◎				
		薬用資源学	必修	○	◎			
		生薬学実習	必修	○	◎	○		
	物理化学系	分析化学	必修		◎			
		薬品分析化学	必修		◎			
		分析化学実習	必修	○	◎			
		物理化学Ⅰ	必修		◎			
		物理化学Ⅱ	必修		◎			
		放射化学	必修	○	◎			
		物理化学系実習	必修	○	◎			
		物理化学系演習	必修		◎			
	生物化学系	生化学Ⅰ	必修		◎			
		生化学Ⅱ	必修	○	◎			
		分子生物学	必修	○	◎			
		細胞生物学	必修		◎			
		生物化学演習	必修		◎			
		生物化学実習	必修		◎			
		微生物学	必修		◎			
		免疫学	必修		◎			
	衛生薬学系	感染制御学実習	必修		◎			
		衛生化学Ⅰ	必修		◎			
		衛生化学Ⅱ	必修	○	◎			
		公衆衛生学	必修		◎			
	情報系	衛生薬学実習	必修	○	◎			
		情報処理基礎演習	必修		◎			
		医薬品情報学	必修	○	◎			
		臨床統計解析学	必修	○	◎			
		臨床データ解析演習	選F			◎		
		ドラッグデザイン演習	選F				◎	

(この表は次ページに続く)

区分	授業科目		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
応用専門教育科目	医療基礎薬学系	解剖学	必修	◎				
		生理学	必修	◎				
		薬理学Ⅰ	必修	◎				
		薬理学Ⅱ	必修		◎			
		薬理学実習	必修		◎			
		化学療法学	必修		◎			
		医薬品化学	必修	○	◎			
		医療心理学	必修		◎			
		製剤学Ⅰ	必修	○	◎			
		製剤学Ⅱ	必修	○	◎			
		製剤学実習	必修	○	◎			
		病態・薬物治療学Ⅰ	必修	○	◎			
		生物薬剤学	必修	○		◎		
		薬物動態学	必修	○		◎		
		薬物動態学実習	必修			◎		
		薬効解析学実習	必修	○	◎			
		分子病態学	選E	◎	○			
	医療専門薬学系	病態・薬物治療学Ⅱ	必修	○	◎			
		病態・薬物治療学Ⅲ	必修	○	◎			
		臨床腫瘍薬学	必修		○	◎		
		病態・薬物治療学Ⅳ	必修	○	◎			
		総合臨床薬学	必修		○	◎		
		病院・薬局実習	必修		○	◎		
		臨床薬学総論	選L		◎	○		
		薬学実践実習	選L	○	○	◎		
		代替医療論	選E		◎			
	医療薬学コース	化粧品健康学	選G			◎		
		医療経済論	選G			◎		
		総合医療薬学演習	選H			◎		
		アドバンスト医療薬学Ⅰ	選I			◎		
		アドバンスト医療薬学Ⅱ	選I			◎		
	創薬育薬コース	高分子化学	選J				◎	
		創薬学	選J				◎	
		医薬品開発学	選J				◎	
		総合創薬育薬演習	選H	○	○		◎	
		アドバンスト創薬育薬学Ⅰ	選K				◎	
		アドバンスト創薬育薬学Ⅱ	選K				◎	
	総合薬学演習		必修		○	◎		
	特別実習		必修	○	○	○	○	◎

カリキュラムマップ



コース選択

コース科目は、本学独自の特徴ある科目であり、本学科卒業後に薬剤師免許を取得の上、主に病院や薬局での臨床業務（高度医療、地域医療等）、国や地方の薬事および衛生行政の各分野で活躍できる人材を養成する「医療薬学コース」と、主に製薬企業や化学・食品・化粧品企業の研究者、生産・技術、学術、営業の各分野で活躍できる人材を養成する「創薬育薬コース」を編成します。3年次後期にいずれかのコース履修を選択することとなります。

■医療薬学コース

「医療薬学コース」では、薬学の基礎から最先端の高度な薬学専門知識や技術、臨床現場に必要な技術や態度に至るまで幅広く修得し、さらに、医療人としての豊かな人間性、高い倫理観を醸成することにより、医療分野で専門的職業人として信頼される薬剤師の育成を目指します。医療現場には患者ベネフィットの向上に向け解決しなければならない課題が多くあります。そのため、広い視野に立って問題・課題を抽出し、その解決法を模索して行動できるような薬剤師の育成を目指します。また、行政や製薬関連分野で薬剤師の資格を必要とする薬事、生活・環境分野で活躍できる人材の育成も目指します。

本コースの履修生は、3年生後期から6年生までの間に、臨床現場での先進的かつ質の高い薬物療法を行うための知識・技能と臨床研究能力を修得するため、病院薬局実習後に、より実践的な薬物療法について学ぶ「アドバンスト医療薬学Ⅰ」、学会・研究会などに参加・研究発表して薬剤師や研究者と交流する「アドバンスト医療薬学Ⅱ」を履修することができます。さらに、超高齢化社会を迎えた日本において医療費の高騰が問題になる中で、医療経済評価について学ぶ「医療経済論」を履修することができます。

本コースの修了生は、薬剤師として主に病院や薬局での臨床業務（高度医療、地域医療等）、国や地方の薬事および衛生行政の各分野で活躍することが期待されます。また、大学院博士課程に進学し、より高度な知識と技能、自立して研究を進める能力を身に付け、指導的な立場で活躍できる力を養成します。

■創薬育薬コース

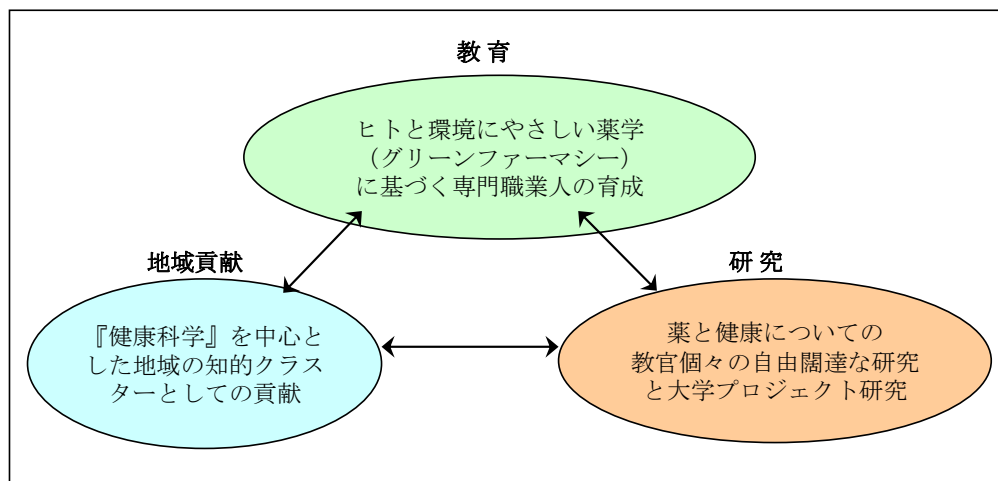
「創薬育薬コース」では、製薬企業における医薬品開発・育薬研究者、グローバル化に向けた臨床開発・企画戦略に貢献できる人材、レギュラトリーサイエンスの専門家、行政や大学での研究者など正に研究の場でノウハウを発揮できる人材の育成を目指します。病院・薬局実習の経験を活かし、患者本位、患者ベネフィットの向上という高い使命感と倫理観を兼ね備えた次世代の研究・技術者を養成します。

本コースの履修生は、3年生後期から6年生までの間に、創薬や製剤技術に関する講義・演習を選択し、創薬の流れを系統的に学ぶことができます。さらに、コンピューターを用いたリード化合物の創製と最適化を学ぶ「ドラッグデザイン演習」、各分野の最先端研究について学内外の講師から学ぶ「アドバンスト創薬育薬学Ⅰ」、学会・研究会などに参加・研究発表して大学や企業の研究者と交流する「アドバンスト創薬育薬学Ⅱ」を履修することができます。

本コースの修了生は、主に製薬企業や化学・食品・化粧品企業の研究者、生産・技術、学術、営業の各分野で活躍することが期待されます。また、大学院博士課程に進学し、より高度な研究開発能力を修得し、製薬企業等の研究所で新薬の創製と開発に携わることができる力を養成します。

活動方針

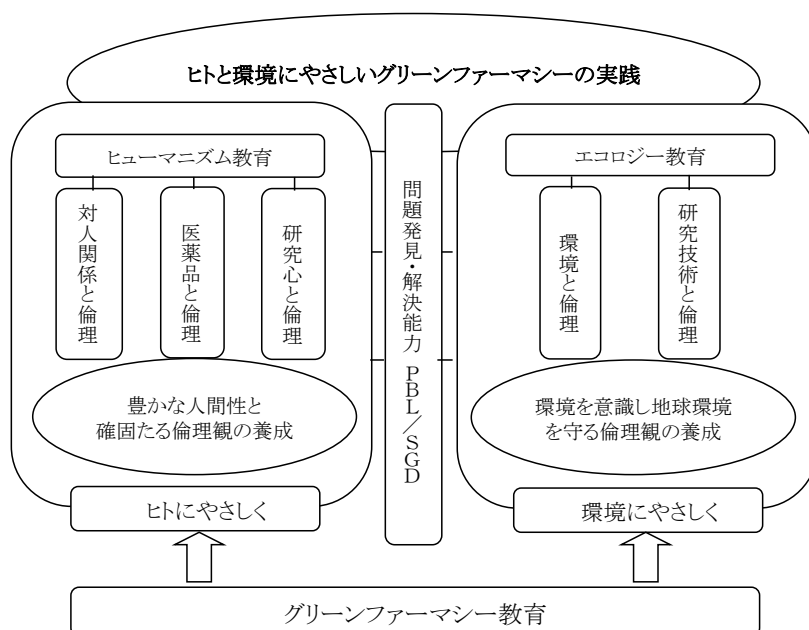
本学は「ヒトと環境にやさしい薬学（グリーンファーマシー）」を教育、研究および地域貢献の基本的な方針として活動する。すなわち、教育は「グリーンファーマシーに基づく薬学専門職業人の育成」であり、研究は「薬と健康についての教官個々の自由闊達な研究と大学プロジェクト研究」を行い、地域では「『健康科学』を中心とした地域の知的クラスターとしての活動」により貢献する。



グリーンファーマシーとは

ヒトと環境にやさしい薬学であり、これを本学の基本理念としています。“グリーン”には、安心、安全、環境への配慮などの意味が込められています。グリーンファーマシーを実践できる人材の育成のためには、深い薬学に関する学理・技術とともに、ヒトと環境に配慮できる、豊かな人間性と確固たる倫理観を身につける「ヒューマニズム教育」と、常に環境を意識し地球環境を守る倫理観を養う「エコロジー教育」が大切です。

本学では、50科目を超える授業の中で、ヒューマニズムとエコロジーの精神に関する内容を具体的に学修事項として取り上げ、シラバス中にグリーンファーマシー「対象」と表示し、グリーンファーマシー関連の学修事項を★印で示しています。このグリーンファーマシーの理念に基づいた教育は、さらに総合的に、研究室及び医療実務実習におけるマンツーマンの指導により、一層の充実が図られています。



ヒューマニズム教育

「対人関係と倫理」

薬学部の学生には、将来生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人への共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につけることが求められています。そのためには、まず、ヒューマニズム（人間性・態度・人間関係・社会における倫理）についての基本的概念を理解し、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション技術を学び、医療の担い手の一員である薬学専門家として、生命の尊さを認識し、生涯にわたって医療を通して社会に貢献できるようになるために必要なこころ構えを身につけます。また、医療現場における実習体験を通して、患者、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するための基本的知識、技能、態度を身につけ、医療現場でのファーマシューティカルケアの実践へとつなげていきます。

関連授業科目： コミュニケーション論 生命倫理学 文学 哲学 薬学概論 早期体験実習
薬学基礎実習 薬学英语Ⅰ 薬学英语Ⅱ 総合医療薬学演習 キャリア形成学Ⅰ キャリア形成学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅲ 特別実習 病院・薬局実習

「医薬品と倫理」

医薬品の開発や承認審査段階だけでなく、医薬品が医療の場に提供された後の安全対策、医療過誤をいかに防止するかが、近年とくに重要性を増しています。医薬品を取り扱う者のとるべき行動には、倫理と不可分の関係にある公益性と社会性が求められています。学生は、医療過誤・医療事故回避、安全性情報の提供、薬害事例の原因とその社会的背景、治験の歴史と人権などについて学び、根底にヒューマニズムへの共感がなければ実践しがたい医薬品の適正使用のために必要な倫理観を身につけます。

関連授業科目：一般化学 薬学概論 薬学基礎実習 キャリア形成学Ⅰ キャリア形成学Ⅱ 医療制度論 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 有機合成化学 薬用資源学 放射化学 分子生物学 医薬品情報学 製剤学Ⅰ 製剤学Ⅱ 製剤学実習 生物薬剤学 薬物動態学 創薬学 病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅲ 医療経済論 総合創薬育薬演習 特別実習

「研究心と倫理」

学術研究が公共の福祉の増進に寄与し、継続的に進展するためには、研究の自由が保障されなければなりません。それにともなう己を律する倫理に基づいた行動が強く求められます。このような背景から、本学では、大学で研究に従事する全ての者が遵守すべき事項として「岐阜薬科大学研究行動規範」を定めています。これを教員が折に触れて言及し自ら実践することにより、学生への啓発が全学的なレベルで浸透しています。特に、以下の科目では直接的あるいは具体的な事例の説明が行われ、学生は研究にともなうヒトへの倫理的諸問題の理解を深め、研究において取るべき倫理的観点からの総体的な行動について学びます。

関連授業科目：一般化学 生命倫理学 薬学概論 キャリア形成学Ⅰ キャリア形成学Ⅱ プレゼンテーション演習 先端医療学 薬事法規 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 有機合成化学 薬品分析化学 生化学Ⅱ 分子生物学 生物化学実習 分子病態学 創薬学 医薬品開発学 特別実習

エコロジー教育

「環境と倫理」

今地球とヒトに何がおこっているのか、その実態と課題を正しく理解するために、地球環境問題を抱えるに至った経緯と歴史を振り返り、その原因、影響、対策等について学びます。薬用資源の保全などの自然保護や、環境要因による生活・健康被害とその予防・管理対策を学び、環境分析・測定、施設見学などの実習を通じて安全・安心な生活環境を創出する態度を修得します。環境問題の根本には、ヒトが生態系の一員として何が許され、究極的に何を守れるのか、という問いがあり、それは正に人間の倫理的なあり方についての自問といつてよいでしょう。

関連授業科目：一般化学 薬事法規 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 有機合成化学 有機化学演習 有機化学実習 薬用植物学 生薬学 薬用資源学 生薬学実習 放射化学 物理化学系演習 物理化学系実習 分子生物学 衛生化学Ⅱ 創薬学 特別実習

「研究技術と倫理」

21世紀の科学では、従来の大量消費型研究開発に代わる省エネルギー型の環境に優しい総合的技術体系の構築が求められています。これには、環境に調和した研究条件を考えていくことが大切です。その最もよい例はグリーンケミストリーと呼ばれる、反応の設計段階から化学製品の全ライフサイクルにおける環境への負荷を最小にする技術です。また、医薬品活性評価

試験などを含めた、考えられる研究分野すべてに渡り「グリーン」や「エコロジー」の精神が重要な位置を占めるのです。本学では下記の授業科目及び卒論実験を通して、地球環境を守り、持続型社会の構築を目指す上で必要な知識・技能・態度を学び、これらを常に意識した薬学のプロフェッショナルとしての研究マインドを養成します。

関連授業科目：一般化学　キャリア形成学Ⅰ　キャリア形成学Ⅱ　有機化学Ⅰ　有機化学Ⅱ
有機合成化学　放射化学　分子生物学　医薬品化学　創薬学　特別実習